

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩心会 発行

現在会員数  
159名  
3月地区別  
264名  
2年地区別  
46名  
返葉大(合計) (469名)

2年3月号(212号)  
発行 者 萃  
根岸 岳  
編集 者  
中村 愛 岳

## 千葉岳香先生を悼む

会長 根岸岳萃

平成二年二月二十二日、奇しくもオール2の日、勤めから帰ると妻が「千葉さんが亡くなられた」と。一瞬「本当!」と叫んだが信じられない。たまたま木曜の練習日で教場に行ったが誰も何も言わない。そこで「間違っていたらご免、千葉さんが亡くなられたと、私の家に連絡があったらしい」と云ったところ、皆さん、私同様、アッと云って声が出ない。皆さんまだ知らなかったのです。そういえば綾部・村田・安田さん達詩舞をしている人達の姿が見えないと戸惑っていると、村田・安田さんが来られ、本当であることを確認。そこで葬儀のお手伝い等打合せて下さいと云い残して千葉家に急行、ご遺体に対面、劔岳さんと葬儀の打合せをすませ教場にとって帰り、碩心会内の連絡をお願いして帰宅、許証申請、県本部役員連絡等に追われ、翌日総本部に行かねばならないので、後事を加藤副会長に託したままで、ご逝去当日の私でした。

思い返せば昭和四十年一月、ご主人と一緒に入門されて丁度二十五年、本当に長いお付き合いでした。入門間もなく詩舞も始められ、又紫舟会から独立、佳香会を設立

詩舞会員を育成、詩舞で、碩心会や県本部等の吟道大会に彩を添えて戴きました。

県本部では庶務副部長、碩心会では永年会計部長、企画部長と大変お世話になり、温習会の企画では寸分のくるいもなく、唯唯驚くばかりの完全な企画でした。

昭和四十二年、なぎさホテルで千葉さん夫妻、小林紫舟さん、そして私共夫婦等でダンスのレッスンに興じたことなど、懐しい思い出です。その千葉岳香さんの計報、全く夢のようです。

碩心会に対する千葉さんの業績誠に大です。そのあとを受けつぎ、会を発展させることこそ、残った我々の使命ではないでしょうか。千葉さんも亦一番喜んでくれると思っております。会員の皆さんも今後健康に注意され吟道に精進しましょう。

吟道は気を養うの道なり。  
人の生や気なり。気竭くれば死す。  
気は以って養わざるべからず。

合掌

### 計報

2月22日15時50分、千葉岳香先生が逝去されました。謹んで御冥福を祈ります。

### 追贈

右逝去により、総伝(岳香)が追贈されました。

### 吟・舞とも同じ途を歩んだ仲

中村愛岳

詩舞京愛会々々長（京愛）

あまりにも突然の計報に、ただただ茫然と泣きふしてしまつた私でした。

傾心会に於ても大きな柱がたおれた感：それほど大きな存在だつたと思います。

生前から私は、千葉夫妻、私達中村夫婦とは、よくよくの縁といつも思っています。それは詩吟の入会年が同じことにはじまり、四人がいつも同時に審査を受け、現在に至りました。そしてその間、傾心会役員、県本部役員等、全く同じ途を辿ってきました。それと颯岳先生と幸岳が同年生れ、香岳先生と私も同年生れということも又縁があつたのだと思っていました。

又詩舞の途に入り、同時期に各自独立、以来姉妹会のような感で今日に至りました。同じ立場として、その間の喜び、苦しみも又きつと同じだつたらうと思ひます。

私がただひとつ、違うところがあると思つていた事：それは岳香先生はほんとうにしっかりと意志の持主だつた事。それに比べて私は意外にもろい性格なのです。ですから岳香先生はたよりになる人でした。私はいつも心の中で、岳香先生が亭主、私

は女房：と思つていて、生前にそんな話をした事もあります。私がかこまでこれたのも岳香先生がいたればこそと思います。

最後のお別れは、二月十二日、平塚に於ける八段審査会に、審査補助員として御一緒し、帰りに逗子のスナックで、根岸先生、千葉夫妻、他二、三の方とお茶をのんで、その場でお別れしたのが最後となりました。

翌朝、幸岳共々お別れに馳せましたが、微かな笑みを浮かべ、唇にうつつらと紅をさした、ほんとうに安らかなお顔で、黄泉の国へと旅立たれました。こうして書いてみると、天上から岳香先生が、私に微笑みかけられているような気がして、私は「待ってね、私もいつかきつと行くから：そして又、仲よく吟じたり、舞ったりしませうね」と心の中で話しかけ、又涙がとめどなく溢れてきてどうしようもありません。御冥福を心から祈ります。

### 思い出は限りなく

逗子A支部 渡辺秀岳

思いもかけぬ悲しみに突然おそわれ、大黒柱を失つた私達は、今、大きな悲しみに包まれております。きびしい冬の色から、やわらかい春の陽に変わろうとしているのに：どうしてこんなに早く…。それに颯岳

先生はお料理が全然ためなので、とても一人には出来ない、よくおっしゃっていたではありませんか…。いまだに信じられない気持ちでいっぱいです。

御家族、御親族、諸先生方、吟舞友、又お弟子さん方と、ほんとうに多勢の人達に惜しまれ、誰一人として涙しない人はおりませんでした。

素晴らしい舞の御衣裳をお召しになられて（お気にいりの衣裳とか）美しいやすらかなお顔で、ゆりうごかせば目をさまして下さるかの様に思われ、色々語りかけたかったのですが、千葉先生とお呼びするのが精いっぱいでした。

今ありし日の楽しそうに笑っている写真を前に書いておりますが、涙がながれて仕方ありません。二十余年の長きにわたるお付きあいの重さは、ひとつひとつ追想となつて鮮烈に迫ってきます。懇親会旅行、新年会の踊りの練習に、全国大会に、温習会に、初舞にと、思い出は数限りなく、其の時々の折々に、ほんとうに楽しく、愉快に過して参りました。常に平らかな心で、皆さんに接し、どれほど慰めの言葉をいただいたことか。そして勇気づけられて、今日まで…。悲しみは無限に広がり、痛恨に耐えません。千葉先生、どうぞ安らかに：御

冥福をお祈り申し上げます。

### 追悼の辞

鈴木容岳

詩舞佳香会副会長（佳鵬）  
突然の先生の訃報に、信じられぬ気持ち一杯です。野辺の送りを済ませ、じっと目を閉じる私の中に、こみあげてくる熱きものは隠すことは出来ません。

ことさらにここで、先生のことを語ろうとは思いませんが、師が一生かけて灯された、思い出多いとしびを、私達を引きしめ、名を汚さず、決して消すことのないよう、努力を惜しみません。

どうぞ安らかにお休み下さい。そして私達の進むべき道を、どうか暖かいお気持ちで見守っていて下さい。心より御冥福をお祈り申し上げます。

傾心会の皆様、お通夜、そして葬儀には大変お忙しい中を色々ありがとうございます。また。

これからは先生の意志を継ぎ、綾部秋香（秋岳）を代表として、詩舞の道に、会員一同力を合わせて邁進する積りでございませぬので、生前の先生同様、温かいご支援と御鞭撻を賜ります様、心からお願ひ申し上げます。

### どうぞお心安らかに

銀詠支部 清田霜風

梅花薫る二月二十二日、朝元気でいらした千葉先生が、午後三時には幽明をわかとうとは、誰が予測したことでしょう。

想えば昭和四十八年、千葉先生御夫妻の御指導を戴いてから、早や十七年の歳月がながれました。当時お稽古は颯岳先生が主で、最後に「貴女の方はどう、これでよいのかな？」と、必ず香岳先生にお聞きにされました。すると「よろしいんじゃないですか」とのお返事があり、今想起してみますと、驚愕のように、いつも御一緒に、教場の男性軍の羨望的でした。その吟友の男性のうちお二人も鬼籍に入られました。五十年に橋本支部長の肝入りで、B支部の設立となり、今日迄銀詠A支部を颯岳先生、B支部を香岳先生に御指導いただきました。各種行事はA・B一緒で、何年か続いた納吟会、新年会の箱根・湯河原と、過ぎし日の楽しい思い出となりました。宴酣となり、香岳先生の詩舞が、いつも花を添えて下さいました。楽しかった思い出をたくさん残していただきました。ほんとうにありがとうございます。心から御冥福をお祈り申し上げます。

妙法信舞院佳香清信女位様、どうぞお心安らかにお眠り下さいませ。 合掌

### ありし日の巨舞

若葉支部 佐々木邦泉

平成元年の秋、東京九段会館で催された「全国テイチク吟詠剣詩舞東京大会」の時のことでした。

広々とした檜舞台で、スポットを浴びて舞台狭しと舞われる千葉佳香先生の、余りの芸の大きさに、私は目を見張りました。私共に接される折の、あの温かい先生が、芸の力でこちらも変わられるのか。と。白銀の衣装を纏って、児島高德に扮し、毅然として舞われた晴れ姿が、昨日の事のように蘇ります。

共演の綾部、吉田、村田、磯村の各先生と「桜花に付与して九天に奏す」と舞い納められると、「よく出来た」との力強い吐きかけが聞こえました。振り向くとそれは颯岳先生でした。ご夫君としてじっと見守って居られた気遣いと、吟の道の先輩としての情から発した自然の喝采であったのでしよう。感動のひとつでした。

桜花を待たない突然の旅立ちに、ただただあの世での巨舞と、ご冥福をお祈りするのみでございます。 合掌

練吟  
メモ お勉強

○吟詠界も逐年老齡化の傾向にある。しかし、何歳になっても、詩歌の朗詠で楽しみながら、頭脳と心身の鍛練に努めて行きたいものである。今月は、手近の朗詠集の中から一首を採り出してお勉強をし、頭の体操の材料は、その気になればいくらでもあることを知っていただきたい。

○ さくらの花のちるをよめる 紀 友則  
久かたの 光のどけき 春の日に

しづ心なく 花のちるらむ

(語釈) 久かたの 天・地等の枕詞。光に對しては始めて使われた。△光 日の光の意。△春の日に 春の日であるのの意。

△しづ心 しづかな心。おちついた心。

(通釈) 日の光のどけき、このようにゆ

ったりした春の日であるのに、どうして心

せわしく、花は散っているのであらうか。

○(諸説) 「春の日に」の「に」の見方の

違いによって二説に分れている。(一)は「に」

を単に「春の日に」というように、時や所

を示す助詞とするもの。(二)は「に」を「春

の日であるのに」のように、「に」によつ

て上句と下句とを逆に接続(接続助詞)す

る。だから、春の日に(どうして)のよう

な疑問の語がないのに、どうして・花は散るのであらう、と疑問の形になる。

○(鑑賞) この歌には、知的技巧(いわゆる言葉遊びの表現)がない。したがって、当時の諸撰集にはほとんど選にもれていないのに、ひとり藤原定家が古今集で推撰した。すなわち、あまりにも見たまゝの歌で駄作に過ぎないとする一般説と、そうでなくうららかに眠りに誘われるような京の都をつつむように、らんまんと咲きほこる桜花。

それなのに、どうしてこのようにひんぷんと花は散ってゆくのであらうか。まさに静と動の妙が見事に歌われている。そこには現代人の考える「無常」とか「寂漠」とかはみじんも寄せつけない。作者は、花を惜しみ嘆いているのではなく、一步離れて深遠の理(ことわり)を覚めた目で見ているというのである。

○(付記) また、「ひさかたの」というゆつたりしたリズムが、のどかな春の日ざしの、けだるいムードを効果的に表しているのに加え「ひさかたの」「ひかり」「はるのひ」「はな」というハ行音と、「ひさかたの」「のどけき」「はるのひ」「はなの」というように、「の」の音が巧みにうたいこまれ、その織りなす響きにみごとな安定感があることを見逃すわけにいかない。

◎選抜予選会出場者きまる

右会出場者選出の傾心会選考会が二月三日、六代御前社務所で行われ、左記の方が選出され、4月15日(日)静岡大仁町民会館に於ける予選会に出場することになりました。

加藤圭岳 磯村朋岳 立沢御風

三壁照風 森 晴風 村井知風

嶋津幸風 (以上7名)

◎企画部長後任に村田滯岳先生

企画部長千葉先生の逝去に伴う後任人事、その他の議題についての常任理事会が、三月一日六代御前社務所に於て行われ、後任を村田先生にお願いしたところ受託されました。

(支部長変更)

真澄支部長星野輝風さんに代り菊池祐風さんが支部長になりました。

(入会)

558 鈴木幸子 横浜市泉区白百合一〇〇四

(大船B) 電〇四五―八一―一〇八三

559 栗山敏子 横浜市泉区白百合一―二七六

(大船B) 電〇四五―八一―一八四二

(退会)

12 千葉香岳(逗子A)(死) 113 田所洋風(大船B)

288 柴山詠山(沼間)